



サステナビリティレポート 2024



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

京都生活協同組合

発行

サステナビリティ推進部

〒601-8382 京都府京都市南区吉祥院石原上川原町1-2

組織概要

創立：1964年11月27日

理事長：畑 忠男

事業活動エリア：京都府全域

事業所：支部 10 / 店舗 18 / 葬祭事業 1 / 介護事業所 6

子会社・関連会社：5社

2023年度概況 (2024年3月20日)

組合員数：573,897人

事業高：836億3,734万円

出資金：188億4,714万円

職員数：1,468人 (7.5時間換算)

*アルバイト職員除く

本レポートでは、理念や2030年ビジョンに向かって取り組むことを、「私たちが実現したい姿」で示す4つの項目に沿い、事業と活動内容を報告します。



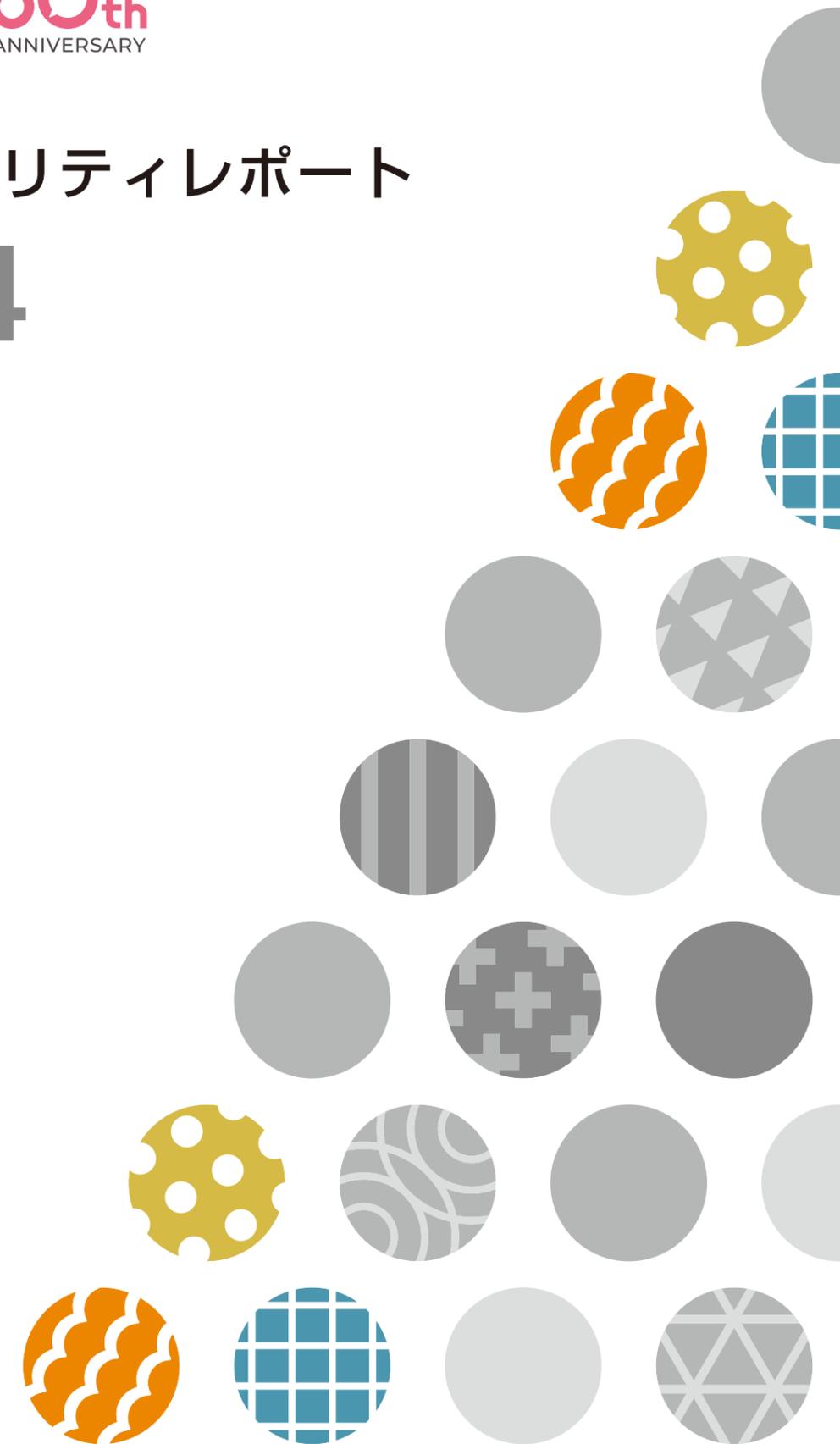
用紙：この製品は、適切に管理されたFSC®認証林、再生資源およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。

印刷インキ：植物由来の資源を原料の一部に使用して製造したインキを使用しています。

本冊子のご意見・感想をお寄せください



発行：2024年6月



INDEX

- 03 理事長メッセージ
- 04 理念/2030年ビジョン/ブランドロゴ
- 06 コープSDGs行動宣言
- 08 コープ二条駅リニューアルOPEN
- 12 平和への願い
- 14 つながる取り組み
- 16 コープのエシカル
- 18 食品ロスの削減
- 20 プラスチックの削減
- 22 総合力で普段の暮らしへの役立ちを高める
- 24 安心して暮らせる地域社会づくり
- 26 持続可能な世界の実現に向けて
- 28 多様性を認め合う活力ある組織を目指して
- 30 運営参加/事業紹介/グループ会社

創立60周年、 希望ある未来へ

京都生協は1964年、物価の高騰などで暮らしに不安が募る中、「お互いに頼もしい隣人となりましょう」との呼び掛けで誕生し、今年60周年を迎えます。創立以来、助け合いの組織として、食の安全・安心の追求、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現に向けて取り組んできました。60年間、京都生協を支えてくださいました組合員の皆さま、生産者やメーカー、取引先の方々、行政や地域の団体、全国の生協の皆さまに感謝を申し上げます。

今、世界では気候変動の脅威にさらされており、自然災害の増加、プラスチックゴミによる海洋汚染、戦争や紛争、格差の拡大、飢餓や貧困などの問題を抱えています。日本においても、平和の問題、食糧資源確保や食品ロス削減、貧困や孤立など多くの課題が山積しています。これらの課題解決に向けての取り組み、協同組合の役割発揮も期待されています。

京都生協が行う事業（宅配・店舗・福祉・葬祭・共済など）は日々の暮らしを支える生活インフラであると考えています。コロナ禍で「つながり」や「助け合い」の大切さが再認識される中、「頼もしい隣人たらん」という理念を大切に、SDGs（持続可能な開発目標）の実現にも貢献していきます。少子高齢化、物価高騰等々、不安と不透明感の大きい情勢ですが、2030年ビジョン『京都生協は新たな希望をつくる』の実現に向けて、地域の皆さまの食を中心とした日々の暮らしを応援できる、また、未来に向けて明るい希望を創造できるような京都生協を皆さまとともにつくっていきたくと決意しています。

理事長 畑 忠男



理念／2030年ビジョン

理念 頼もしき隣人たらん

私たちは、相手を気にかけて、困っていることはともに考え行動し、暮らしに寄り添い、支え合っていく「頼もしき存在」であり続けます。

2030年ビジョン 京都生協は新たな希望をつくる

次の世代、そしてさらに次の世代へ「安全・安心」な地球環境を手渡していけるように、組合員や職員そして関係する全ての人々と力を合わせ、「新たな希望」をつくります。

ブランドロゴ



地域

暮らしを豊かにするコミュニティ、明るく楽しく開かれた自由な場

KYOTO COOP

おいしいを届ける私たち、希望をつくる私たち

地球

グローバルな視点で暮らしを支え、持続可能な世界の実現に貢献

これまでの「安全・安心・信頼」といった基本的な提供価値を継承し、新たな姿勢表明として「KYOTO COOP」「地域」「地球」を表しました。 私たちが暮らす町や、地域社会や地球(世界)が持続可能であるように、「安全・安心」により磨きをかけるとともに、多様な人々を認め合い、助け合う関係を紡ぐ希望ある社会を3つの輪にこめました。さまざまな色やパターンを用いて、KYOTO COOP が目指す「多様性・つながり・自由で楽しい」を表現しています。

サブグラフィックエレメント[※]について

第1～7原則まである「協同組合原則」は、協同組合がその価値を実践に移すための指針です。世界中の協同組合の共通のルールとなっています。この原則をモチーフにしたデザインを配達トラックの架装などに用いて、「多様性・つながり・自由で楽しい」を表現しています。

※ブランドロゴを補完するグラフィック要素

<p>■第1原則 自発的で開かれた組合員制</p> <p>オープン モチーフ：開いているさま</p>	<p>■第2原則 組合員による民主的管理</p> <p>平等 モチーフ：均等に分けられたかたち</p>	<p>■第3原則 組合員の経済的参加</p> <p>参加 モチーフ：加わる・プラス</p>	<p>■第4原則 自治と自立</p> <p>自立 モチーフ：干渉し合わない自立する縦線</p>
<p>■第5原則 教育、訓練および広報</p> <p>学び モチーフ：向上心、矢印</p>	<p>■第6原則 協同組合間協同</p> <p>つながり モチーフ：接点、連なり</p>	<p>■第7原則 コミュニティへの関与</p> <p>かかわり モチーフ：重なり合う波紋</p>	<p>協同組合原則</p>

2024年は創立60周年を迎えます

1964年11月27日、「頼もしき隣人となりましょう」と京都生協が設立され、今年で60周年を迎えます。ブランドロゴに合わせて60周年ロゴを制作し、さまざまな広報物に展開いたします。吹き出しのモチーフは協同組合ならではの意見を出し合う、声を反映していく組織であることを表現しており、組合員や職員、関係する方々に感謝を伝えられる1年を目指しています。



ブランドムービー
「Social Good Loop」



コープSDGs行動宣言

日本生協連は、2018年6月15日に開催された、第68回日本生協連通常総会にて「コープSDGs行動宣言」を採択しました。「持続可能な開発目標（SDGs）」について、生協もその一端を担うべく、7つの取り組みを通じてその実現に貢献することを約束します。

持続可能な生産と消費のために、商品と暮らしのあり方を直していきます		地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します		世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します		核兵器廃絶と世界平和の実現を目指す活動を推進します	
ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します		誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します		健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます			

京都生協とSDGs

SDGs (Sustainable Development Goals) とは

2015年9月に開催された国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。2030アジェンダは、2016年から2030年までの国際社会共通の目標を掲げています。この目標が、17分野の目標・169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」です。京都生協の事業や活動は、このSDGsの取り組みと重なり合っています。

 ・ユニセフ支援活動 ・フードドライブ	 ・WFP学校給食プログラム支援	 ・福祉事業 ・介護食品の供給 ・ピンクリボン運動支援
 ・食育 ・消費者市民社会づくりの活動実施	 ・男女共同参画に向けた取り組み	 ・コアノンスマイルスクールプロジェクト
 ・再生可能エネルギーをつくり、使い、ひろげる取り組み	 ・健全な経営 ・ワークライフバランスの強化	 ・自動発注 ・セミセルフレジ
 ・ユニセフ支援活動 ・フェアトレード	 ・地域見守り活動 ・買い物困難者支援 ・被災者支援活動	 ・産直 ・エシカル消費推進 ・プラスチック問題への対応
 ・事業での温室効果ガス排出削減 ・家庭での削減啓発	 ・海洋環境配慮型製品の開発と普及（MSCなど）	 ・森林環境配慮型製品の開発と普及（FSC®など）
 ・ヒロシマ・ナガサキのピースアクション ・沖縄戦跡地めぐり	 ・協同組合間協同 ・地域団体、NPO、行政、自治体などとの連携	

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



コープ二条駅 リニューアルOPEN



コープ二条駅は2023年11月に建て替えOPENしました。

「ゆたかで たのしく おいしい エシカルマルシェ」をコンセプトに、SDGsを意識した商品の取り扱いや地域との連携などを通して、楽しく豊かな買い物空間を目指します。



エシカルの取り組み

地域や環境、社会や人々に配慮した「エシカル消費」のコーナーを展開し、産直・地産地消・京都産品や、オーガニック・国産素材などの品揃えを増やしました。

エシカル消費対応商品コーナー

誰かの笑顔につながるお買い物「コープサステナブル商品」や国産素材、地産地消の商品などを取りそろえています。



量り売り

プラスチックゴミの削減や食品ロス削減のため、ほしい分だけを紙袋に入れて購入する量り売りコーナーを設置しました。



資源を守り、活用する設備

太陽光発電

温室効果ガス削減のため、京都生協本部や店舗、配送センターの屋上に太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーの導入を推進しています。コープ二条駅では、年間見込み発電量は約11万kwh/年を想定しています。



自然冷媒機器

現在、支部での冷凍・冷蔵倉庫や店舗でのショーケースは、ノンフロンガスによる自然冷媒機器を5支部・2店舗で導入しており、新たにコープ二条駅にも設置しました。今後、支部では「主要冷凍冷蔵機器のうち、今後新規導入する機器の100%を自然冷媒機器」に、店舗では「新店舗および冷凍機更新を伴う全面改装店舗数の50%以上に自然冷媒機器」を導入していきます。

生ごみ処理機の設置

食品リサイクル率の向上を目指して、地球環境にやさしい消滅型生ごみ処理機を導入しました。「運ばず・燃やさず・その場で処理」をコンセプトとしており、店舗で排出する生ごみを微生物の力で生分解します。



子育て応援の取り組み

きらきらステップ・きらきらキッズ

お子さまとパパ&ママを応援する子育て応援商品を取り扱っています。お子さまの成長にあわせて、離乳食や幼児食などを開発しています。



授乳室・おむつ替えシート

1階・2階に授乳室を備えており、赤ちゃん連れの方にも安心してご利用いただけます。また、おむつ替えシートは男性トイレにも設置しています。



地域との連携

京都の木材の使用

京都市内産木材を使った内装として風除室の壁と店内柱の一部に京都市内産材「みやこ杉木」を使用しています。京都木材協同組合とのつながりから京都市域産材供給協会の「みやこ杉木普及促進事業」に参加しました。また、2階には京都府内産材を使用しています。地元の木の使用は、運搬距離が短くなり、運搬時に排出されるCO₂も削減することが可能となります。さらに地域の林業の担い手を支援することにつながっています。



フリースペース「KYOTO Co-Lab (きょうとこらぼ)」

地域の人々が気軽に集える自由な空間のフリースペースを2階に設置し、暮らしや地域のSocial Goodな情報発信の場として活用していきます。

KYOTO Co-Lab
Co- … 助け合う、協力的な、協同組合の
Lab … 実験の場



暮らしのお役立ちとなる総合施設として

コープ二条駅は、1階には共済カウンターを設置しており、CO・OP共済についてご相談、お手続きができる窓口があります。また、3階にはクオレ案内センターとして仏壇のショールームや仏事に関するご相談を承っています。店舗西側には宅配の引き取りステーションも併設しており、配達先を店舗とすることで、引き取り場所での商品の受け取りが可能となりました。



KYOTO Co-Lab活動紹介

▼つながる市

2階に出店している無印良品と一緒に、それぞれつながりのある企業や団体に声をかけ開催しました。「つながる」の名のとおり、組合員と出店者、出店者同士がつながり、今後の展開が期待できるイベントになりました。



▼「同女美人バナナ」もぎ取り体験

京都市と同志社女子大学は、「食」を通じた地域活性化と人材育成に関する包括連携協定を締結しており、その協定をもとに開発された「同女美人バナナ」の販売を同志社女子大学生活科学部食物栄養科学科の学生と一緒に行いました。バナナのもぎ取り体験では、子どもたちも参加し賑わいました。



▼天才アート展

障害のある人の多様な余暇活動や、作品の販売・デザイン化による本人の能力を生かした新たな就労形態のあり方に取り組まれているNPO法人障害者芸術推進研究機構（天才アートKYOTO）と天才アート展を開催しました。天才アートとは、障害のある人やひきこもり者などの多くがもっている優れた感性と表現力、そこから湧き出る独創的なアート作品に対して独自にネーミングされたものです。



▼コープ石川こしひかりイベント

1月に発生した能登半島地震の被害を受けた生産地を応援するために「がんばろう能登！がんばろう石川！」として、コープ石川こしひかりのお米キャンペーンを1階の売場、2階のフリースペースと連動させて開催しました。商品の購入や、石川への応援メッセージの記入など、組合員がさまざまな形で復興を願いました。



平和への願い



第二次世界大戦後79年が経ちますが、今もなお世界のいたるところで紛争が起こり、悲惨な状況下に置かれている人々がいます。京都生協では、「京都生協 平和への願い」に基づいて、平和な未来をつくるため、組合員や全国の生協、諸団体と協力し活動しています。

京都生協 平和への願い

2002年、京都生協の平和についての基本的な考え方を明確にし、平和の取り組みのさらなる発展を目指して「平和への願い」を作成しました。

「平和への願い」
はこちら



ガザ人道支援声明

パレスチナ自治区ガザ地区におけるイスラエルとの紛争激化から双方の民間人に深刻な被害が出ています。ガザ地区では、何万人もの死傷者が報告されており、100万人以上の子どもたちが砲弾や銃撃に加え、壊滅的な生活環境と食糧不足によって命の危険にさらされています。支援を必要とする状況に陥っていることから、日本政府に対して要請文を提出しました。

要請文の
詳細はこちら



緊急支援募金

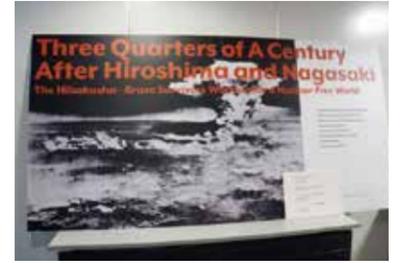
日本ユニセフ協会では「ガザ人道危機緊急募金」として支援を呼びかけており、京都生協でも組合員に対し緊急募金への協力を呼びかけました。危機下にあるパレスチナ自治区ガザ地区の子どもたちやその家族に支援を届けるため、お寄せいただいた募金は、安全な飲料水の確保、医療物資や燃料の提供、栄養不良の子どもたちへのケア、心理社会的な支援など、ユニセフが行う緊急・復興支援活動に役立てられます。

ユニセフ募金活動

京都生協では1989年からユニセフ募金の取り組みをスタートしました。2015年からはミャンマーを支援先とする指定募金「ミャンマーの女性と子どものための栄養支援プログラム」に取り組んでいます。加えて、2023年度は3月から4月に「トルコ・シリア地震災害緊急募金」を、10月から11月には「リビア洪水災害緊急募金」の呼びかけをおこないました。寄せられた寄付金は日本ユニセフ協会を通じて、被災地の緊急・復興支援に役立てられています。

国連原爆展in京都

国連原爆展は2022年8月のNPT（核兵器不拡散条約）の再検討会議にあわせて、日本原水爆被害者団体協議会が国連本部で開催した展示です。全国の生協からの募金によって、展示パネルが作成されたことを受け、京都でも開催する運びとなりました。主催：京都府生活協同組合連合会、コンシューマーズ京都、京都生活協同組合



ピースアクションinオキナワ

2023年3月23日～25日に日本生協連・沖縄県生協連共催の、ピースアクションinオキナワ～第40回沖縄戦跡・基地めぐり～に組合員理事、エリア会スタッフ、職員が参加しました。



開催テーマ「沖縄で学ぶ、子どもと平和」

- 1日目：講演 3人の方から、戦争体験や戦争孤児となった証言、大学生から見た基地問題等の報告などを聞きました。
- 2日目～3日目：フィールドワーク 沖縄県内に残されている戦跡や米軍基地をめぐり、実際に目で見て、あらためて戦争の悲惨さや平和の大切さを感じました。

<参加者の感想>

話を聞いたり、さまざまな場所を訪れる事で、改めて日常の延長線上に戦争があった事に気づかされました。平和な社会が続くよう関心を持ち続け、今回知った内容を少しでも多くの人に伝えていく事が私の役目だと感じました。

ピースパレードin京都

2023年6月21日に、国民平和大行進に合流し、地下鉄蹴上駅から京都市役所まで、沿道の人々に平和をアピールしながら組合員、理事、職員の約40人が参加しました。参加者からの「We love peace Love & Peace」の掛け声に、沿道では笑顔があふれていました。



戦争体験談の紹介（機関紙コーポロ）

戦争・被爆体験者は徐々に少なくなり、薄れゆく戦争の記憶を後世に語り継ぐことが課題となっています。京都生協では平和への想いをつなぐ取り組みとして、毎年、機関誌コーポロ8月号で組合員からご応募いただいた戦争体験談を紹介しています。

戦争体験談



つながる取り組み



京都生協は組合員、生産者などの取引先、地域とのつながりを大切にしています。

きょうされんとつながり

京都生協ときょうされん京都支部は1990年に「すべての人間が大切にされる平和な社会をつくること」を共通の課題として協定を結びました。以来、きょうされん商品の企画や地域での交流など連携を進めています。

きょうされん
1977年に障害のある人たちの
願いをもとに16カ所の共同作業
所によって結成された団体

商品の取り扱い

「きょうされんの商品があれば利用して応援したい」という組合員の声を受けて、コープ下鴨、さかの、二条駅で取り扱いをしています。



きょうされんと京都生協のつどい

2023年7月12日、ハートピア京都で「きょうされんと京都生協のつどい2023」を開催しました。当日は4年ぶりの対面開催となり、作業所や京都生協から約90人が参加しました。



社会貢献活動助成金

京都府を拠点にSDGsに貢献しているNPOなどの団体の活動支援を目的に2019年に制度を創設しました。2023年度はオンラインでの活動報告会を開催しました。

2023年度助成 10団体 **195万円**

▼ 2023年度助成対象団体

NPO法人 献血と骨髄バンクの和を広げる会	認定NPO法人 夢街道国際交流子ども館
ハンド&ネイルケア ボランティアチーム ガンチャー	崇仁教育連絡会
五感で学ぶ料理教室 クラボ	左京朝カフェ 世代間交流グループ
花パン	ぶんげい一座
NPO法人 京田辺音楽家協会	ダウン症ダンスサークル Happiness

祇園祭応援 オリジナルうちわ配布

祇園祭の伝統を応援するために、協賛で環境に配慮したうちわを配布いたしました。うちわ骨に京都府産の廃棄米を使用したバイオマスプラスチックを、紙は宇治川の葦を使用した葦紙を使用しています。



協同組合間協同

大学生協 居場所づくりの会

京都府生協連を通じて、「居場所づくりの会（準備会）」に参加している組合員がつくったエコバッグを「エコバッグエールポスト」として同志社生協の購買部に設置しました。活動に参加しておられるご高齢の方の自宅のタンスにある古い浴衣や洗える生地で作ったエコバッグをつくり、利用した学生からは組合員にメッセージを届けました。



大学生協 お金のはなし

大学生協と連携し、4月から新社会人となる学生向けに、京都生協LPA（ライフプラン・アドバイザー）の会によるオンラインセミナーを開催しました。14大学1高専、459人の学生(卒業予定者)が参加し、給与明細の見方や資産運用、奨学金の返済、クレジットカードの使い方など、実生活に役立つ内容を学びました。「新社会人として、お金とどう向き合えばよいか分かった」などの感想が多数寄せられました。



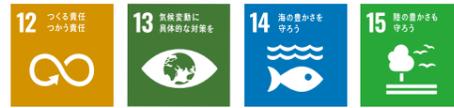
能登半島地震 復興支援

2024年1月1日に石川県能登地方で発生した震度7の地震で、能登地方は甚大なる被害を受けました。全国の生協が連携し、現地からの要請を受けて、被災地域の組合員の暮らしの復旧に向けて支援活動を行っています。京都生協からも、配達支援や共済お見舞金の訪問活動など職員を派遣しました。また、組合員へは募金への呼びかけを行うとともに、宅配カタログ「パレット」表紙の商品を利用することで利用金額の一部が支援募金となる取り組みを行いました。この宅配カタログでの募金額227万7,963円は「令和6年能登半島地震災害支援募金」に寄付しました。



令和6年能登半島地震災害支援募金額 **11,692,300円**
(2024年3月20日現在、2024年度継続中)

コープのエシカル



京都生協では、地域や環境、社会や人々に配慮したエシカル消費を推進しています。「誰かの笑顔につながるお買い物」としてエシカル消費の啓発に積極的に取り組んでいます。

エシカルなお買い物応援イベント

2022年1月、京都市と締結した「『エシカル消費』普及促進に係る連携に関する協定」に基づき、「エシカル消費」を組合員・消費者に浸透を図るため、エシカルイベントを開催しています。

エシカルデー@コープ二条駅

2024年2月17日にコープ二条駅1階の売り場、2階のフリースペースKYOTO Co-Labを中心に、クイズラリー、食べくらべ、学習会、ゲーム・ぬり絵など、楽しみながら「エシカル消費」について知るイベントを開催しました。



コープ山科新十条やコープラくさいでもイベントを開催



エシカル消費対応商品の取り扱い

 <p>MSC「海のエコラベル」 持続可能で適切に管理された漁業で獲られた水産物につけられる認証ラベルです。</p>	 <p>FSC® 認証 責任ある森林管理をしている林業者を応援し、世界の森林保全につながる木材製品です。</p>
 <p>無着色ひとくち辛子明太子(切子)</p>	 <p>ミックスキャロット</p>

エシカル消費対応商品取り扱い点数 **約2,735万点** (前年度比107.9%)

生産者との交流

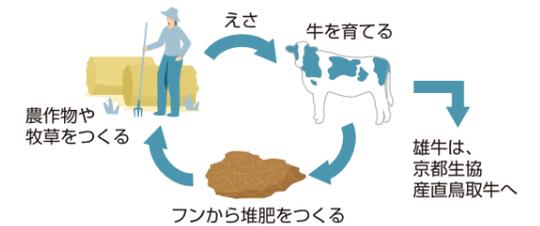
も〜も〜キャンプ

2023年7月29日・30日に鳥取県で「も〜も〜キャンプ」を開催しました。も〜も〜キャンプは、せいきょう牛乳や産直鳥取牛のふるさと・鳥取県のコープ美歎(みたに)牧場を訪れるバスツアーで、4年ぶりの現地開催となりました。工場見学・バーベキュー・キャンプファイヤー・牛とのふれあいなど、大自然の中での体験や生産者との交流を楽しみました。



産直せいきょう牛乳の循環型酪農

おいしい牛乳は健康な乳牛から。せいきょう牛乳の製造元である大山乳業の生産者はいい乳をつくるための草づくり・土づくりに牛の堆肥を有機肥料にして活用する循環型酪農に取り組んでいます。



JA北びわこ「産直滋賀こしひかり」稲刈り体験

産直滋賀こしひかりの生産地である滋賀県長浜市JA北びわこで稲刈り体験と交流を行いました。稲の刈り方のレクチャーを受け、鎌やコンバインをつかって刈り取りました。そして、新米を使った昼食交流の後、JA北びわこの農業の現状と課題について学習しました。



応援金 環境保全と地産地消

対象商品の利用1品(1個)につき1円の寄付で生産者や生産地を応援する活動を続けています。「サンゴ再生もずく基金」は、沖縄県恩納村のサンゴが育てたもずく商品をご利用いただくことで、地球温暖化などの影響で失われたサンゴ礁を再生し、美しい海を守り続ける活動に貢献しています。また、「産直さくらこめたまご」は、産直さくらたまごを産む国産鶏「さくら」の飼料に京都府内産の飼料米を配合し、生産しています。2009年度からスタートした京都生協の「食料自給率向上」「地産地消推進」「水田の保全や活用」の取り組みで、生産者・組合員・京都生協が力を合わせ行政と連携しながら食と農の循環を目指しています。

2023年応援金総額

サンゴ再生もずく基金応援金

324,800円

サンゴ植え付け本数 139本

産直さくらこめたまご応援金

3,526,610円

食品ロスの削減



「食品ロス」とは本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことで、社会的に問題となっています。京都生協ではこのような食品の「もったいない」を減らすために取り組んでいます。

フードドライブの拡大

フードドライブは家庭で使い切れない賞味期限内の未使用食品を持ち寄り、それらをフードバンク団体を通じて必要とする方々へ提供する取り組みです。2023年6月より実施回数を毎月2回から4回に増やし、10月には新たにコープ宇治神明で開始しました。寄付された食品は母子支援施設や子ども食堂といった支援を必要とする方々へ提供されました。

フードドライブ
開催店舗数 **17店舗/18店舗中**

総回収量 **8,693kg**

宅配物流センターにある予備商品のフードバンク提供を継続的に行っています。

提供量 **4,249kg**



提供先（子ども食堂）での活用の様子

食品廃棄の削減と食品リサイクル率の向上

❖ 宅配事業

2021年度から宅配での食品良品返品は原則受け付けないこととするルールを設け、食品廃棄問題への対応に取り組んでいます。

※P19「宅配良品返品の商品提供」にて記述

食品良品返品数 **53,193点**
(前年比 111.7%)

❖ 店舗事業 食品廃棄物のリサイクル

店舗で排出される食品残渣を堆肥などでリサイクルしています。

コープ二条駅では消滅型生ごみ処理機を導入しました。今後は導入店舗の拡大などを通じて、食品リサイクル率の向上を目指します。

食品リサイクル率 **42.5%**

宅配良品返品の商品提供

2021年から組合員のご理解のもと、入院などやむを得ない事情を除き「良品での返品は受け付けない」運用を始めました。しかし、現在でも一定数の返品があり、食品廃棄の課題に直面しています。引き続き、良品返品は受付できないことを組合員にご協力をいただき、それでもなお発生した返品商品は、京都府社会福祉協議会・市区町村社会福祉協議会を通じて、子ども食堂などの地域の福祉団体に活用していただく取り組みを始めました。

提供量 **4,441.9kg**



未来につなぐ取り組み

❖ 協同組合間協同 立命館生協×洛中支部

2023年9月20日に、立命館生協とのコラボ企画として、大学生によるボランティア体験を実施しました。参加した大学生が、洛中支部で宅配返品商品の仕分けと提供する商品のリストを作成し、「嵐山こども食堂」へお渡ししました。



❖ 小学校への食品ロス学習会の実施

2023年10月25日に、京都市立待鳳小学校の総合的な学習の授業でゲストティーチャーとして京都生協の食品ロス削減の取り組みを報告しました。授業では、小学校の近くにあるコープにしがも店長から少量パックなどの販売の取り組みを中心に、店舗で誰でも参加できるフードドライブの活動を紹介しました。

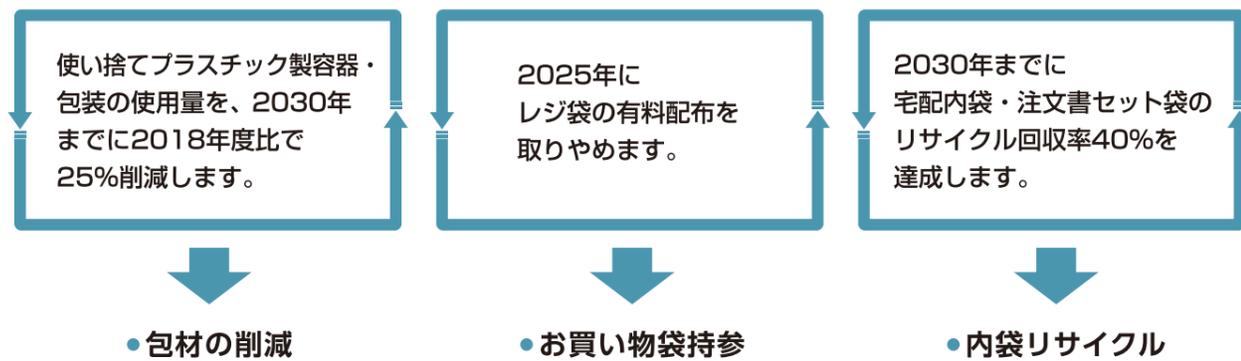


プラスチックの削減



プラスチックは安全かつ衛生的で、コストが安く加工しやすい特徴から日常生活にあふれていますが、「その後」が大きな課題になっており、地球温暖化や資源の枯渇、海洋プラスチックの原因にもつながっています。持続可能な地球環境のため、京都生協ではプラスチック削減の目標を定め取り組んでいます。

私たちの目標



数値目標は、社会的な水準を参考に、京都生協の未来のあるべき姿から逆算して目標を定める“バックキャストिंग”の手法で策定しました。社会情勢や進捗を踏まえて、見直すことがあります。

お買い物袋持参運動

京都生協でのレジ袋削減の取り組みは、1983年にコープ下鴨で最初にスタートしました。当初はスタンプ方式によるレジ袋節約運動として取り組み、1996年には全店でレジ袋の有料化を展開してきました。2025年にはレジ袋の有料配布を取りやめる目標を掲げており、2024年度下期から4店舗で実験・検証をふまえた上で、全店導入を目指します。

お買い物袋持参率 **92.5%**
 レジ袋削減枚数 **1,141万枚数**



プラスチック包材の素材変更

京都生協の店舗で組合員から回収したペットボトルが再生資源としてトレーや包材に活用されており、資源循環を実現しています。

透明トレーの素材変更

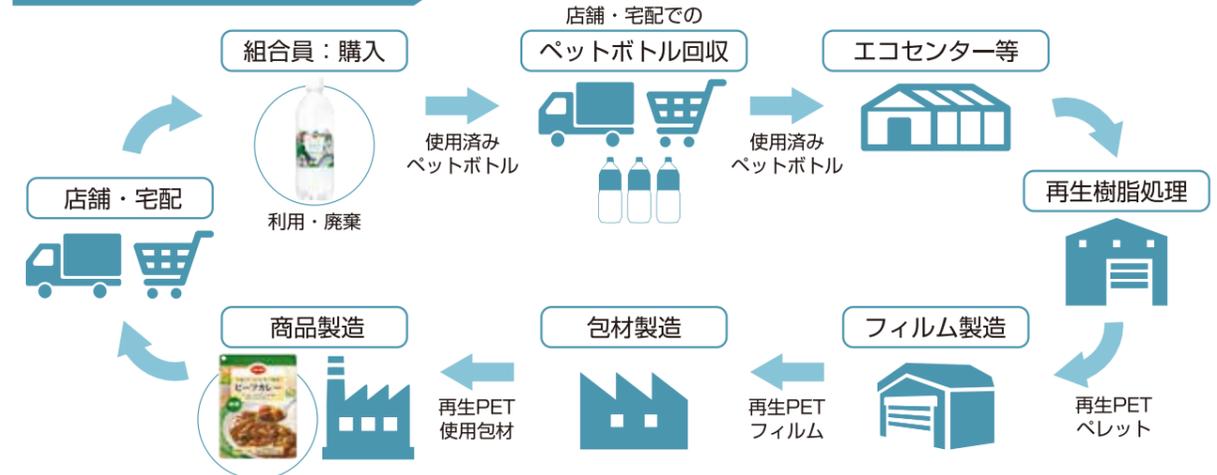
店舗では、2022年度より総菜売場で使用するトレーの一部を、CO₂削減に効果のある再生プラスチックのエコトレーに切り替え、さらに2023年度は水産売場のトレーにも広げました。エコトレーは、リサイクルで回収したPET再生原料を使用しています。



リサイクルしたペットボトルがコープ商品のパッケージに

日本生活協同組合連合会では、生協で回収したペットボトルをコープ商品のパッケージの原料の一部として再生利用する取り組みを行っており、京都生協でもリサイクル回収したペットボトルを提供しています。この取り組みを通して、「CO-OP ふっくら卵のオムライス」や「CO-OP ビーフカレー」などの商品パッケージに再生素材が使われており、順次拡大していきます。

回収ペットボトル再生利用の流れ



宅配内袋のリサイクル

商品お届け時の内袋をリサイクルするため、回収について定期的にチラシで呼びかけています。回収した内袋は、再生プラスチックの原料となり、新しいプラスチック素材として再使用しています。

内袋回収量 **38t** (前年比109.1%)
 内袋回収率 **21.8%**



総合力[※]で普段の暮らしへの役立ちを高める



京都生協が追い求めてきた食や暮らしの安全・安心は、今日の社会のスタンダードとなりました。持続可能な社会がさらに求められる今、食や暮らしだけでなく人への優しさや寄り添う心、人とのつながり、そして地球に対する「安全・安心」がこれからのスタンダードになると確信しています。

※総合力とは、組合員・取引先・職員がシームレスな連携を行うことで、組合員の利便性向上を目指すこと

KYOTO COOPアプリ

2022年から開始した「KYOTO COOPアプリ」は、お得で便利なおすすめ機能を加え、さらに組合員のライフスタイルにあわせたお買い物体験ができるように、これからも機能の充実に取り組めます。

配達状況確認「ココドス」

組合員番号を入力すると、どこまで配達完了しているかが分かる機能がアプリに搭載されました。

トップページのデザイン変更

宅配 / 店舗 / お役立ち の3つの視点からトップページの情報を整理することで、必要な情報をより分かりやすくなるように変更しました。

宅配訪問通知サービス

*P.24「安心して暮らせる地域社会づくり」にて記述



京都生協コープ商品 パッケージリニューアル

京都生協は、理念「頼もしき隣人たらん」、2030年ビジョン「京都生協は新たな希望をつくる」を掲げ、2021年にブランドロゴを一新し、組合員とのさまざまな接点において刷新を進めています。2023年度は主に京都生協コープ商品のパッケージを切り替えました。



60周年企画

2024年は京都生協創立60周年を迎えます。60周年を記念した商品の開発やプロモーション、イベントなどをそれぞれの事業が連携して計画しています。



組合員とのコミュニケーション

組合員活動

生協への加入は、商品やサービスの利用だけでなく、より良い暮らしにしていけるためのさまざまな活動に参加することができます。また組合員が自分たちで積極的に活動を始めことができ、組合員の「もっと知りたい」「やってみたい」ことへの参加や活動をエリア会やコープクラブ、サークル活動などを通して応援しています。



コールセンター

組合員コールセンターを設置し、組合員からの問い合わせにきめ細やかに対応することで、より良いサービスを多くの組合員に届けています。

組合員コールセンター対応件数

意見・要望	問い合わせ	苦情	合計
179,520件	121,469件	52,830件	353,819件

商品の点検・検査の実施

産地・取引先での点検の様子を公開中



商品を安心してご利用いただくため、品質保証部が定期的に点検・検査を実施し、商品の確かさ・安全性・品質を科学的に検証しています。

検査名	内容	数
微生物検査	微生物による食中毒のリスクが高い食品を中心に国の基準よりも厳しい生協の独自基準に基づき検査を実施します	2,626検体
理化学検査	残留農薬や放射性物質(セシウム)などの検査を行います	229検体
産地点検	産直商品の産地を訪問し、農畜産物の栽培、飼育方法などを確認します	64カ所
工場等の点検	京都生協コープ商品の製造工場をはじめ、取引先や店舗を訪問して衛生的な環境のもとで商品が製造されていることなどを確認します	83カ所

安心して暮らせる 地域社会づくり



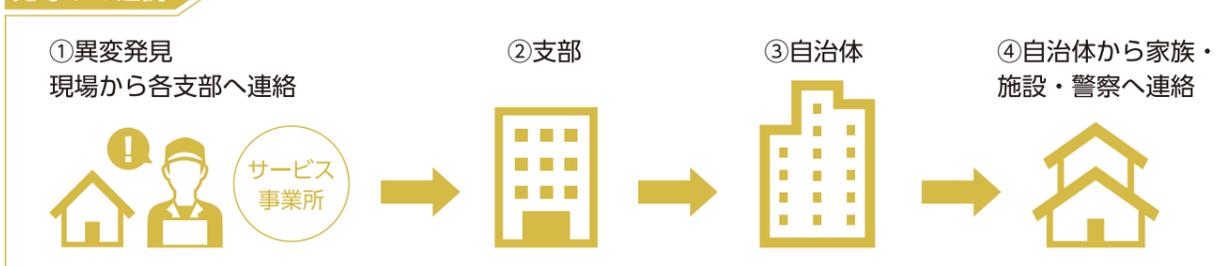
京都生協が提供するサービスは「食」を中心としたものにとどまらず、組合員、地域や行政などと連携しながら暮らしを支えています。時代とともに変化し続ける地域の暮らし、その中で誰も取り残すことなく住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会づくりに取り組んでいます。

高齢者等の見守り活動

京都府内26自治体のうち、23自治体で「配達時における高齢者等見守り活動」協定を締結しています。宅配事業や夕食サポート事業などそれぞれの事業の特徴に合わせ、各自治体と連携を取りながら見守り活動を行っています。

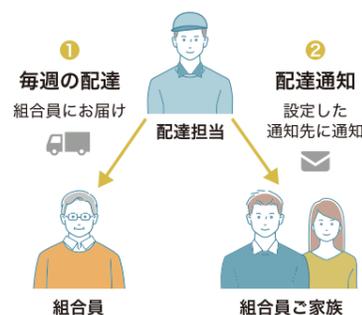
協定数 **23自治体**
2023年度
見守り通報件数 **50件**

見守りの連携



KYOTO COOPアプリでの配達連絡

個人宅配を利用の組合員を対象に、配達にお伺いした情報を離れて暮らすご親族などへ、アプリでの通知やSMS・eメールを使って定型文でお知らせをする見守りサービスを始めました。



全店舗・全支部にAEDを設置

安心して働ける職場環境づくりや、救護措置および不測の事態への備えとして、すでに設置が済んでいる全店舗や本部に加え、宅配の全ての支部にAED（自動体外式除細動器）を設置しました。救急車が到着するまでの一時救命処置を迅速に行うことで、その後の生存率や社会復帰率の向上を図ることができます。また、このAEDは近隣の住民の方々や施設利用者の方にも使用していただけます。



お買い物サポート

少子高齢化社会の加速などによる買い物困難者が増えています。食品を手に入れることに対して不便を感じる「食品アクセス問題」は、社会的な改善課題となっています。お買い物サポートは、お買い物支援だけでなく、外出機会の創出や、同乗者とのコミュニケーションの場としての役割も果たしています。

おかいものサポートカー

毎週決まった曜日・時間に生協の店舗まで無料送迎を行う登録制専用車を運行。年齢を重ねるともにお買い物に出にくくなった方や、車を持たない方のお買い物をサポートしています。



運行店舗数：**10店舗** 登録者数：**836人**

移動店舗 おかいもの便

店舗が少ない地域を中心に、店舗で販売されている商品で移動販売車を運行しています。自治体や社会福祉協議会と連携し、停留所の拡大を進めています。



週あたりの利用人数：**710人** 停留所：**91カ所**

福祉相談会を実施

切れ目ないサポート体制をとるために地域包括との日頃からの連携や、近隣の同業の方との研修会を開催し、地域の情報交換や悩みを共有するなどして、組合員や地域の方に安心をお届けしています。また、コープの店舗で介護相談会を開催し、さまざまな相談に応じるほか、福祉用具の展示も行っています。

2023年度募金・寄付金

ユニセフや自然災害支援、人々の暮らしを支える募金活動に取り組みました。

▼募金・寄付金一覧

募金名	金額	募金名	金額
ユニセフ募金（7月～8月）	6,180,916円	きょうされん募金	2,665,135円
ユニセフお年玉募金		くらしの助け合いの会への募金	1,924,982円
ユニセフ自然災害緊急募金「トルコ・シリア地震」	1,436,421円	平和募金	1,085,462円
ユニセフ自然災害緊急募金「リビア洪水」	267,574円	令和6年能登半島地震災害支援募金	11,692,300円 *2024年度継続中
ハンガー・フリー・ワールド「書損じハガキ等回収キャンペーン」	7,813,893円	災害支援の活動カンパ	104,416円
くらしを守る取り組みを支える募金	1,795,199円		

持続可能な世界の 実現に向けて



自然と社会の仕組みを相互の関連の中で総合的にとらえ、「生産-流通-消費-廃棄の連鎖」をトータルに視野に入れた科学的な活動を展開するために「SR・環境方針」を掲げています。

SR (社会的責任)・環境方針

- ・「人間-環境系の調和」という視座を土台に据えます。
- ・「安全・安心」の商品政策を一層発展させ、環境に配慮した商品づくりをすすめます。

2014年よりKES・環境マネジメントシステムのステップ2SRに登録維持をしています。それに基づき、毎年SR・環境目標を計画し、SR環境マネジメント活動の継続的改善を図っています。

京都生協の
SR (社会的責任)
環境方針



SR・環境目標

A良好 (100%以上達成)、Bやや不足 (90%以上達成)、C不適合 (90%未満)

中核主題	2023年度の目標	2023年度の取り組み	評価
1 組織統治	コンプライアンスの周知徹底を行います。	職員へのCSR教育とアンケート、取引先へのアンケートにより、コンプライアンスの周知徹底を行いました。	A
2 人権	障害者雇用率3.4%を目指します。	障害者雇用率は3.79%でした。	A
3 労働慣行	階層を問わないハラスメント教育の実施。	eラーニングで職員学習を実施しましたが、次年度学習ツールは選定中です。	B
4 環境	CO ₂ 排出総量の削減を、2022年度比102.3%とします。	CO ₂ 排出量は、7,653.4tで前年比99.2%となり、目標比103.1%となりました。	A
	使い捨てプラスチック製容器・包装の使用量を2018年度より3.6%削減します。 リサイクル回収総量2022年度比98%とします。 *カタログは2023年度から除く	使用量は418,145kgとなり、2018年度比109.7%となりました。2018年度より供給高が伸長し、使用量も増加しています。 リサイクル回収総量は、312,491kg(前年比99.3%、目標比101.3%)となりました。卵パック、内袋で回収量が増加しました。	C A
5 公正な事業慣行	エシカル消費対応商品の供給数量を2022年度比101%として、普及を図ります。	エシカル消費対応商品の総利用点数は、約2,735万点(前年比107.9%、目標比106.8%)となり、利用が広がりました。	A
6 消費者課題	店舗のフードドライブ実施回数を4回に増やします。	フードドライブの実施回数が、毎月2回から4回に増えました。	A
	食品リサイクル率の向上に向けた調査研究を行います。	今後の取り組みの方向性をまとめた「まとめ報告」を作成・確認されました。	A
7 コミュニティへの参画・コミュニティの発展	研修受け入れ・学習会の開催100回を目指します。	学習会、事業所見学などの年間活動総数は163回となりました。	A

温室効果ガス削減

地球温暖化の影響と思われる災害が頻発しており、私たちの社会・暮らしは持続可能な脱炭素社会への移行を求められています。京都生協では、「環境2030構想」を策定し、2030年までに京都生協グループのCO₂排出量を2013年度比で40%削減することを目指しています。

温室効果ガス削減の事例については、9ページの「コープ二条駅リニューアル」の「太陽光発電」、「自然冷媒」で報告しています。



私たちが取り組むリサイクル活動

宅配や店舗で使用した容器や包材、カタログなどを回収し再生品の原材料とするリサイクル活動を行っています。

	宅配	宅配・店舗	宅配・店舗	店舗	店舗	
回収品目	内袋・注文書セット袋	カタログ類	紙パック	卵パック	トレー	ペットボトル
用途	プラスチック製品の原料	新聞用紙、印刷用紙	トイレロール、ティッシューパーなど	卵パックの原料	トレー	透明容器、コープ商品のパッケージ
回収量(t)	38.0	4,024.4	116.0	47.6	20.5	90.3
回収率(%)	21.8	71.5	45.1	74.9	61.9	194.0*
CO ₂ 削減量(t-CO ₂)	-	-	103.7	176.2	101.6	293.4

*京都生協での供給量以上の量を回収しています。

店舗ではペットボトルキャップを回収しています。その売却益は、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンに寄付され、病気の子どもとその家族が利用できる滞在施設の建設費と運営費に充てられます。

ペットボトルキャップ
回収量
543万個

生物多様性を考える

いきもの学校

生物多様性の大切さや自然環境が地球温暖化の防止に役立っていることなどを学ぶ企画として、毎年「いきもの学校」を開催し、2023年度は「植物園編」「京北編」「動物園編」の3つのテーマで取り組みました。親子連れなど、のべ104人が参加し、生物多様性の保全について楽しみながら学んでいただく機会になりました。

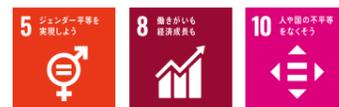
参加者の感想

- ・動物園での動物の生態や獣医さんなどの仕事も少し知れてよかったです。実際に動物達も観察でき楽しかったです。
- ・子どもたちはこれまで、なかなか自然に触れる機会がなかったのですが、川を出る頃にはすごく楽しんで生き物を観察したり、触ったりしていて、変化に驚きました。



私たちが実現したい姿 —2030年ビジョンに向かって取り組むこと—

多様性を認め合う 活力ある組織を目指して



京都生協は新たな希望をつくることをビジョンに掲げ、多様性を認め合う、活力ある組織を目指し、職員が安心して働き続けられる職場環境づくりに取り組んでいます。



休暇制度の拡充

❖ ドナー休暇

働く職員の特別休暇として「ドナー休暇制度」を導入しました。ドナー候補者または提供ドナーに選ばれ、面談や検査、入院などを行うのに必要な期間を有給で保障することで、ドナーとなった職員の心理的負担を軽減し、職員のドナー登録を促進します。



❖ 育児休暇

子育てをしながら働ける職場環境を目指し、正規・専任・パート職員を対象として、子どもが3歳になるまでの育児休業、また子どもが小学校を卒業するまでの時短制度を設けています。また、2023年に、休業等の制度や出産時に必要な手続きなどを網羅した、「産休・出産・育休・育児時短の手引き」を作成し、対象職員に配布しました。

育児休業取得者数

14人

男性育児休業取得率
*産後パパ育休含

35.7%

育児時短勤務利用者

7人

❖ 介護休暇

家族の介護が必要な職員に対し、仕事と介護の両立を支援するために、介護休職や休暇、時短制度などを設けています。介護に直面する職員の悩みに少しでも寄り添えるように福祉事業部と人事教育部は冊子「仕事と介護の両立のために」を制作しました。

研修・教育制度の充実

❖ きらっと研修in沖縄

商品学習や生産者との交流、他事業との交流を深めることで、組織全体の視点でものごとを捉えるきっかけになる研修を毎年春に行っています。



❖ 歩行ラリー研修

チームワークやマネジメントの重要性など、体験を通して学んでいます。

子ども参観日の実施

親の仕事を体験することで「働くこと」について学び、親子の絆を深めることを目的に、毎年夏休みに子ども参観日を実施しています。



参加した子どもたちの感想

- ・お仕事の人は優しく笑顔で教えてくれました。お母さんはいつも大変な仕事をしているんだな、と思いました。
- ・これからはお手伝いを頑張ってお母さんを助けたいです。

障害者雇用

京都生協の特例子会社であるハートコープきょうとの職員2名が、令和5年度京都障害者ワークフェアにて「優良勤労者表彰」を受賞しました。本表彰は、京都での障害者支援の一環として、これまで障害のある方の雇用促進と安定に貢献する事業所、また障害と向き合いそれぞれの職場において永く勤めた優秀な個人に対してその功績をたたえることを目的とされています。また、ハートコープきょうとは2023年に創立10周年を迎えました。これからも、リサイクル事業や清掃などを通じて障害者の自立支援と雇用促進、環境保護など、社会に貢献していきます。



障害者雇用率 **3.79%**

ハートコープきょうと

障害者雇用促進法に基づき設立された京都生協100%出資の特例子会社。パートナー企業としてリサイクル事業などを通じ、障害者の自立支援と雇用促進、環境保護など社会に貢献しています。2018年に京都はあ とふる企業の認証を受け、以降「優良事業所」「優良勤労者」として京都府知事賞の受賞を継続しています。

運営参加

生協運営のしくみ

生協が社会的責任を果たすためには、「機関運営」が適正に行われることが必要です。

生協で機関に当たるのは、最高議決機関としての「総代会」、総代会決定に基づいて重要事項を決定する「理事會」、生協を代表して業務を執行する「代表理事」、理事による業務執行の状況を監査し、適切な業務が行われるようにする「監事」です。

経営責任

内部統制システムの整備

公正で健全な組織運営を行うため、2010年に「内部統制基本方針」を定め、以下4つの目的を達成するために、毎月開催するリスク管理委員会で整備計画の進捗管理を行っています。また、独立の立場で経営諸活動の全般にわたる制度および業務執行状況を監視・検証するとともに、内部統制システムの構築の進捗状況、運用状況や有効性などについてモニタリングを行うため、内部監査担当による監査を実施しています。

業務の有効性および効率性

財務報告の信頼性

事業活動に関わる法令などの順守

資産の保全

業務マネジメントシステムの運用

「目指すべき方針や目標を定めて、その目標を達成させるための仕組み」として、「業務マネジメントシステム」を運用しています。仕事の改善を進め、組合員満足の向上、商品・サービス品質の向上、事業計画の達成を目指します。

コンプライアンス体制の推進

倫理・法令や社会規範、職場のルールを守り、正直で誠実な事業と活動を進めるための職員教育に取り組んでいます。2005年に「コンプライアンス基本方針」「コンプライアンス自主行動基準・順守事項」を定めて、職員にコンプライアンス順守、ハラスメント防止、ネット上での情報発信の注意、飲酒運転の撲滅などの啓発をしています。

事業継続計画 (BCP)

台風・豪雨などの災害に対して、京都生協では事業継続計画 (BCP) に基づき「自然災害対応マニュアル」に沿った対応をしています。他団体との通信訓練や職員の安否確認訓練などを定期的実施するとともに、行政などの多様な組織と連携した取り組みを進めています。また、情報セキュリティ対策の強化も重点に据え、暮らしを支える事業の継続に努めています。

外部審査の結果

特定非営利活動法人KES 環境機構に登録し、毎年の定期審査を受け、業務マネジメントシステムが有効かつ適切に機能・維持されているかを審査しています。

■審査機関：特定非営利活動法人KES * 環境機構 * 京都から発信された「環境マネジメントシステム」の規格

◆審査結果：KESステップ2SRに適合していると判定されました。 ◆受審組織：京都生活協同組合

◆審査実施日：2023年9月13日・14日 ◆適用規格：KESステップ2SR

◆審査目的：京都生協のマネジメントシステムが、KESステップ2SRの要求事項に適合しているかを審査すること。

コンプライアンス相談

職員相談件数 **16件**

取引先相談件数 **0件**

事業紹介

■宅配事業

京都府全域に週に1回、食品から日用品、雑貨までさまざまな商品をお届けします。

■店舗事業

安全・安心の品揃えとサービスを提供し、日々のお買い物から暮らしを支えます。

■福祉事業

「住み慣れた地域で暮らし続けたい」という想いのために、きめ細やかな介護サービスをお届けします。

■共済事業

全国の組合員同士の「助け合い」の気持ちから生まれた保障制度です。

■葬祭事業

宗教・宗派・形式を問わずご葬儀から仏壇仏具まで、旅立ちのときをお手伝いします。

グループ会社

京都協同食品プロダクト(株)

水産・畜産の生鮮加工食品の製造、販売を行う、京都生協の加工センターです。

(株)ハートコープきょうと

京都生協の特例子会社として、リサイクル事業を通じて障害者の自立支援と雇用促進、環境保護などの業務を行っています。

(株)コープストアサービス

コープのお店9店舗で、インスタアベーカーリーの運営を行っています。

宅配

供給高：**573億円** (前年比101%)

利用人数：**183,173人**/週

夕食サポート

管理栄養士によってカロリーや塩分を考慮したお弁当の配達サービス「夕食サポート」を展開しています。

利用人数：**3,891人**/週

店舗

供給高：**253億円** (前年比105%)

利用人数：**33,304人**/日

福祉

事業収入：**4億116万円** (前年比93%)

利用人数：**1,214人**/月平均

共済

手数料収入：**8億2,406万円** (前年比100%)

保有件数：**272,297件**

葬祭

供給高：**8,902万円** (前年比96%)

クオレ会員数：**12,267人**

(株)コープネットワークサービス

京都生協の物流や宅配事業を中心に業務を行っています。

(株)京都コープサービス

各種保険、リフォーム・新築、カルチャー教室、さまざまな斡旋サービスなど、毎日の暮らしの快適さを実現する多彩な商品サービスをご案内しています。